



| | |
|------------------|---|
| Title | 2.平成27年度の活動：「突発災害防災・減災共同プロジェクト拠点」の活動方針 |
| Citation | 北海道大学突発災害防災・減災共同プロジェクト拠点平成27年度報告書, 27, 6-7 |
| Issue Date | 2016-03-31 |
| Doc URL | http://hdl.handle.net/2115/74588 |
| Type | report part |
| File Information | 4-policy.pdf |



[Instructions for use](#)

「突発災害防災・減災共同プロジェクト拠点」(H27～)

- ・**突発的に発生する災害**の防災と減災をめざし、

2015年4月1日に「突発災害防災・減災共同プロジェクト拠点」をスタートさせました。

理系、文系といった学部の垣根を越えて自然現象と社会構造を同時に取り扱い、新たな災害対策への提案を行います。

- ・農学研究院・理学研究院・工学研究院・文学研究科・公共政策大学院の
5つの分野の研究者で構成されています。

突発災害防災・減災共同プロジェクト拠点活動方針(案)

①研究開発

- グループA: 山地・過疎地域における複合的リスクの分析と対応のあり方
- グループB: 都市地域における複合的リスクの分析と対応のあり方

②防災教育

- ・大学院共通授業科目の開設(H28～)「突発災害危機管理論」
- ・研究開発成果を用いた、自治体職員等への講習会の開催

③社会貢献

- ・市民等への防災知識の普及(平常時):
「北海道/防災・減災リレーシンポジウム ー突発災害に対する防災・減災を考えるー」(H27)
- ・防災機関と連携した現象分析と必要な助言(緊急時)

④海外展開

- ・海外研究機関等との情報交換
- ・総合的な防災パッケージ技術の提供

研究開発の進め方

- ・想定する災害の場面を2つに分類する。
各グループごとに対象現象の範囲と規模を想定し、研究フローを設定する。
グループA(火山・土砂災害系);
山地・過疎地域における複合的リスクの分析と対応のあり方
グループB(都市・建築・交通災害系);
都市地域における複合的リスクの分析と対応のあり方
- ・グループごとの分析(H27~28)を行った後、両者の結節点・融合点における問題を抽出し、総合的な対応策について検討を行う(H29~30)。

初期対応時の問題点抽出→複合的課題に対する対処方針検討
→個別的解決手法の開発・提案→総合的対応策の整理

- ・年度報告書の作成 → 関係機関への配布 (各年度末)
- ・科研費の申請

研究開発の進め方(2)

- ・取り扱う主要な現象の整理→グループメンバーの配置(案)→グループ幹事の決定
グループA(火山・土砂災害系); 山地・過疎地域における複合的リスクの分析と対応のあり方
火山噴火時・直後の災害、融雪土砂災害、流木災害、雪崩災害 etc.
(丸谷・村上・小泉・◎小山内・笠井・桂) 紫字はスーパーバイザー、◎はグループ幹事
グループB(都市・建築・交通災害系); 都市地域における複合的リスクの分析と対応のあり方
地震災害、津波災害、交通障害、ゲリラ豪雨、河床低下(扇状地河川)、キャンパス防災 etc.
(高松・谷岡・岡田・山下・萩原・橋本・泉・◎野呂) 紫字はスーパーバイザー、◎はグループ幹事
- 結節点・融合点; 扇頂部(谷・溪流→平地)(豊平川など)
インフラ集中地域近くの活火山(樽前山など)
- ・科研費の申請
- ・大学院共通授業科目の申請